

(2) 製造工程途中の検査ができる。

欠陥を早期に発見できれば、以後の製造工程における無駄を排し、合理的な加工工程を組むことができる。多量生産の品物については自動連続探傷によつて品質管理と生産管理はいちじるしく増大する筈である。

(3) 製造技術の改善、品質の改善に効果的である。

従来の実例からいつて金属材料の熔製、鑄造、圧延、熔接などの技術向上に大きな効果があつた。また物理冶金的研究にもなくてはならぬものとなつた。

(4) 使用中の機械の信頼度を向上させる。

種々の機械の疲労や摩耗、鉄道車輛、ボイラ、タービンなどは分解することなく検査できるので、安全性がいちじるしく向上した。また消耗的な機械部品では寿命の予測ができるので、生産工程を合理的にすることができる。

以上のように非破壊検査の効果が工業上に益する程度は実に大きいことがわかつた。それだけに検査技術はも

つともつと改善されなければならない。現状では非破壊検査技術はやつと確立したばかりで、これから愈々本当に実用化する段階といつてよいであろう。例えば全数検査がごく簡単に行えるような装置の発達とか、自動連続探傷がもつと広範囲に行えるような方法の考案といつたようなことは一日も早く実現されるべきである。熱間圧延中のインゴットやピレットの切捨量でも自動探傷で制御される時が来るのもそう遠い将来ではないであろう。タービンロータや大型ボイラドラムのような重要品だけが非破壊検査の対象ではないという強い要求こそ非破壊検査を健全な発達に導く指標であると考えられる。

付 記

本文では非破壊検査について基本的なことを主にして述べたため、最近実際に行われている状況を詳細に記す余裕がなかつた。またX線による応力測定、超音波表面波法、厚さ計などについては割愛したことをおことわりしておく。(昭和34年6月寄稿)

会 誌 掲 載 広 告 料 金 に つ い て

本会々誌広告掲載各位におかれましては、本会事業のため、かねて多大の御支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて会誌は内容の充実と改善に伴い最近発行部数もいちじるしく増加しておりますので、さらに一段の改善を期し、本年9月号より表紙の紙質もアート紙と致しました。ついでには表紙広告料金を下記の通り変更し会誌昭和35年1月号掲載分より実施致したく存じますので御了承の上今後も引き続き御掲載下さるよう。あらかじめ御通知少々お願い申し上げます。

会 誌 「鉄 と 鋼」 広 告 掲 載 料

表紙の4	1 ページ	25,000 円 (新掲載料)
表紙の2	1 ページ	22,000 円 (〃)
表紙の3	1 ページ	20,000 円 (〃)
前 付	1 ページ	16,000 円 (従来通り)
後 付	1 ページ	14,000 円 (〃)
綴 込	B 5 判 1 枚	14,000 円 (〃)

なお、本会誌の広告は下記において取り扱つておりますので、掲載御希望の方はいずれかへお申しつけ願います。

協 会 通 信 社 東京都千代田区神田小川町1~10 三勢ビル3階 電 (25) 8656~9
 広 和 堂 東京都中央区銀座西8~3 小鍛冶ビル5階 電 (57) 6836